



題字は松井岳洋筆

No. 436
平成28年11月

発行
(公社)日本詩吟学院 認可

碩心会

発行者 上村岳章
編集者 伊藤岳光
神奈川県三浦郡葉山町堀内1285

Tel/Fax.046-875-3397

URL http://sekishin.holy.jp

「青春」の詩に学ぶ

監事 山崎勝風



職を退いて15年。縁あって碩心会に入会させて頂き10年、多くの知己を得ることが出来た。

それぞれ、詩吟を生涯の趣味の一つとして、情熱を傾け充実した人生を過ごされている方々に接し、羨ましくさえ感じたほどであった。

何故か？その鍵とも言える一篇の詩が脳裡に浮かんだ。ふと立ち寄った書店で目に留まった「青春という名の詩」(宇野収・作山宗久共著)だった。ブック・カバールの文言、

「青春とは人生のある期間ではなく、心の持ちかたを言う。・・・年を重ねただけで人は老いない。理想を失うとき初めて老いる。」

に惹かれ求めたのは、30年近く前のことである。この本は詩集ではなく、共著者の一人が受け

取った一通の賀状に引用された詩句に感銘し、初めてサムエル・ウルマンの「青春」の一節であることを知った。幻の詩人と言われていた、この作者の実像と原書その伝播を求めて、共著者と辿った足跡を纏めた書である。(詩も共著者訳)

歲月は皮膚にしわを増すが、情熱を失えば心はしぼむ。と続く。この詩は岡田善夫氏により古語体で邦訳され、本会における師範の課題吟となっている。

伝播の過程で原書も多少異なり、また翻訳者によっても違いはあるが、戦後多くの経営者に愛され、こぞつて金科玉条の如く仰いだ詩句であり、かのマッカーサー元帥が議会において演説された「老兵は死なず・・・」の中で引用されたとも言われている。

日本語訳にして、僅か20行ほどではあるが、経営者のみならず、我々のこれからの生き方にも十分示唆に富んだ詩として参考にしたい。

この詩に謳う心の持ち方、たくましい意志・ゆたかな想像力・炎える情熱、不可能と思いつ

つも心に刻み、残り少ない余生を謳歌したいと思う昨今である。

平成28年度功労者表彰

功労者の部 加藤岳美
壽九十歳の部 森合磐岳

昇伝段位認許 (平成28年10月1日付)

少年(3名)

209 重田すず (小10級) 205 澤木翔太 (小4級)

146 吉田朋之進 (小初段)

初段(7名)

199 北村淑子 202 日比直廣 203 宗助麗子

204 田中友子 206 八木澤一臣 207 小峰昭子

208 小峰八重子

二段(5名)

188 吉村 健 193 藤井チトセ 197 山藤英明

200 平泉忠廣 201 藏重八千代

初伝(6名)

177 山崎清泉 187 吉田枯泉 189 岩田維泉

191 遠藤千泉 194 後藤節泉 195 増田悦泉

三段(6名)

179 作山光泉 180 金子笑泉 182 小林文泉

183 清水翠泉 184 北本綾泉 185 中谷恵泉

中伝(6名)

158 馬場奎山 159 中島千山 160 井上裕山

161 野村京山 163 弦巻康山 164 鈴木実山

六段 (3名)

141 加藤典山 142 田嶋明山 143 亀井水山

奥伝 (3名)

130 高橋禮風 131 中山辰風 132 村上遥風

七段 (4名)

117 今原幸風 118 新田香風 119 畠中潤風

120 矢嶋敏風

八段 (6名)

106 岡田麗風 107 山下信風 109 田中容風

111 歌代宗風 112 品川榮風 113 井上茗風

行事予定

碩心会初吟会

日時 1月14日(土) 開会10時15分

場所 葉山町福祉文化会館

全国認可団体代表吟道大会

日時 3月12日(日)

場所 日経ホール

第5回尚齒会全国吟道大会

日時 3月23日(木)

場所 日本教育会館

春季審査会

日時 4月1日(土)

場所 葉山町福祉文化会館

碩心会創立80周年記念吟詠大会

日時 5月21日(日) 開会10時

場所 逗子文化プラザなぎさホール

詩吟と私 (下岳を受審して)

酔吟支部 佐藤 夫岳

おおよそ、詩吟と関係のない私が、詩吟にのめり込んだのは、今考えると不思議でならない。一寸仕事帰り、疲れ休みに友人達と一杯飲むお店があり、2階で、滝の坂支部の蒲田教場として、行谷師匠が詩吟を教え始めたので、一緒にやろうと兄弟子から誘われたのが始まりで、当初は大変、師匠も苦労されたと思います。何分にも夜8時頃になると、1階から何とも言えない匂いがして、落ち着きが無くなったのが思い出されます。

文学的素養も無く、音痴に近い私に教えるのですから、こんな私でも、周りの弟子達が熱心に取り組んでいるので、何とか置いて行かれないように練習に励みました。(やはり継続は力と言われるように)、お陰でトコロテン式とは言え、下岳が受審出来るまでになりました。と言うのも、仲間の杖にすぎり、初段から初伝、中伝、奥伝そして皆伝と、学校と同じで、小中高大と登り、やっと社会人の仲間になれた感じがです。

声力と音調の悪い私の不足を、詩吟の心を養い、文学的背景の理解に努め、吟力の向上のため研鑽に励んで行きたいものと考えて居ります。兎に角も、我が酔吟支部は、明るく、また、一人ひとり、若々しく前向きな仲間達で、その上素晴らしい師匠のもとで、指導を受けたお陰

で受審できました。「感謝、感謝」でいっぱいです。これで秋の一夜、杯に映る月も楽しみになります。

第7回尚齒会神奈川吟詠大会

渚支部 清水翠泉

蝉しぐれの桜山に伊藤岳光先生(広報部長)からのお電話で「尚齒会」参加の感想文の依頼がありました。その折、「尚齒会」は唐の詩人・白居易(白樂天)に由来する命名の由緒ある大会であると知りました。忍び寄る老いを感じながらの昨今、初めて尚齒会の「会員吟詠」の女性合吟に参加させていただきました。

翌日、早朝に目が覚め、昨日の大会を思い返しました。その日、開会と同時にホールは気持ちの引き締まった空間、プログラムが進むにつれて男性も女性も共に何かが違う、と思ったのは吟の情感が、声に力が、足取りは自身に満ちて、これは戦後の日



平成 28 年 9 月 6 日 (火) 神奈川公会堂

本を生きた人たちの雄叫び(おたけ)なのでは、まさに尚齒の精神と思ひ感動しました。「90歳以上の部」に出場された碩心会の森合磐岳さん、佐久間岳爽さんの味わいのある吟詠披露に満場は拍手喝采。充実した一日を有難うございました。これからも楽しく、一層「吟道」に精進致します。ソノ！(ひびく) 蝸(ひびく)が鳴いています。心に沁みる声です。

久方ぶりの吟行会

真澄支部 村上遥風

午前中は薄曇、午後には青空が広がって、吟行会日和。総勢42名。

上山口小学校バス停から、上山口会館に入る道の間違えるハプニングもあって、到着。

会館では、「葉山ふるさと絵屏風」の説明をいただく。昭和30年頃まで、どこでも見られた懐かしい農村風景を、子どもたちに伝えて行きたいとの話に納得。全員で敬意を表して、「葉山八景」を元気に合吟。

会館前に広がる稲刈りの済んだ千枚田を見ながら、ロフォス湘南に移動、和食弁当の昼食。眼前に山並みが広がる気持ちの良いひととき。

ロフォス湘南から坂道を上がって、国際村の頂上に至ると、「森と畑の学校」農園の大きな看板。左に坂道を下るとすぐに到着。

まず、碩心会の詩、富士山を大合吟。

園代表の伊藤さんの案内により、園内を一巡。園内の一部が開墾されており、畑の方は夏野菜が終わり、冬野菜はこれからという時期。野

菜はレストランにも出荷され、あのセイタカアワダチソウの花が、料理の飾り用に使われているとの説明に、ビックリ。

先ほど皆で掘った落花生が、早速、茹でられて、いつものピーナッツとは違う味を堪能。以上、参加者全員が楽しんだ一日でした。

★参加者の声

◇秋晴れの一日、久しぶりの吟行会に参加。今

や葉山のレガシー的な屏風絵や、おいしいランチ、農場体験など自然の中で満喫しました。(渚支部 照沼夏風)

◇上山口会館は立派で設備も良く「葉山ふるさと絵屏風」の見学、説明に感動！素晴らしき良い一日でした。(二色支部 角田岳久)

◇昭和30年頃の上山口の四季を絵屏風にし、制作責任者の岩澤さんより、古里に思いを込めた説明をお聞きしました。(相洋支部 西岡岳清)

◇絵屏風、里山の棚田。そして新しい農業を目指す農園。身近な葉山で力を尽くされている方々に触れ、計画実施



平成28年10月19日(水) 葉山ふるさと絵屏風を背にして(写真提供:鈴木康風氏)

を担当された企画部のご尽力に感謝の一日でした。(広報部 森晶風)

神静地区吟道講座

一色支部 小菅岳倅

9月18日(日)日本詩吟学院主催の標記講座が、三島市民文化会館で開催された。年1回のこの講座に碩心会から13名出席。

第1講は正岡子規の「五月廿一日朝、雨庭前の松を見て作る」。講師は、さがみ岳風会の市川岳弘先生。子規の略歴を詳しく説明され、和歌の柔らかい響きが出るよう繰り返し吟じた。第2講は岑參の「奉和中書舍人賈至早朝大明宮」。沖縄県の榮岳蓉先生の講義。表現の仕方は「①言葉の工夫 ②イメージづくり」が必要である。「美しい言葉から美しい吟が生まれる」と説明あり。先生の吟は将に歯切れの良い言葉、诗情豊かな表現で、知らず知らず講義に引き込まれてしまった。第3講は、蘇軾の「中秋月」。静岡葵岳風会の澤田岳翔先生が指導。中秋の月に関するテープの紹介と歌で講義に変化をつくってくださった。第4講は、李白の「秋登宣城謝眺北樓」。日本詩吟学院参与の高橋岳鷺先生(北海道在住)の講義。「・・を」の発声を大事にするよう強調。第5講は、齋藤茂吉の連作短歌「死にたまふ母」。日本詩吟学院副理事長の田邊岳璋先生の講義。言葉の細かい説明を受けて吟じると母への鎮魂が感じられた。最後に、受講者代表が謝辞を述べ、実りある一

日は終わった。

平成28年新総伝者(5名)

篁風支部(高見岳湘・高見岳明)
紫陽花支部(曾村岳静・矢島岳綾・矢嶋岳合)



篁風支部 高見岳湘

この度、総伝に推挙して頂き誠に有難うございます。良き師・先生方・会員皆様

恵まれ今日に至りましたが、総伝となった機会に、今迄以上に誠実に、明るく、与えられた業務を着実に遂行して参りたいと存じます。詩吟は今では身体の一部で、毎日詩吟に関わることで、健康を維持し気力と知識を養うことができ、今後とも詩吟に感謝しながら過ごしたいと念じています。

会員のうごき

- *入会(9月1日付)
 - 141 山川 蒼泉(転籍→渚) 鎌倉市玉縄
 - 184 桑原 昭太郎(渚) 逗子市久木
- *入会(10月1日付)
 - 189 鈴木 義崇(東伏見) 葉山町堀内
 - 190 安西 信行(悠々) 相模原市緑区
 - 191 野津 英夫(悠々) 相模原市緑区
 紹介者(2名共) 有友嘉岳
- *入会(11月1日付)
 - 192 井上 君枝(滝の坂) 横須賀市湘南国際村
 - 193 大門 鋼作(滝の坂) 横須賀市湘南国際村
 - 194 村上 日出子(滝の坂) 横須賀市湘南国際村
 紹介者(3名共) 小泉貴岳
- *退会(旧会員名簿による)
 - 17 宇都宮岳徳(松和) 死亡
 - 115 一戸 静(悠吟)
 - 140 泉谷鐵雄(篁風)
- *やよい支部より教場変更のお知らせ
10月より逗子文化プラザ3Fとなりました。



篁風支部 高見岳明

この度は、総伝に推挙して頂き、先生方、諸先輩、会員皆様のお陰と感謝しております。趣味として入った世界も、もう人生の四半期が過ぎ、詩吟の奥深さを改めて痛感しています。「詩の心を音に表す」本当に難しいことです。詩吟は人世のあり方、生き方を教えてくれる様に思います。未熟な自分ですが、健康に気をつけ総伝として恥じないよう明るく努力し、楽しみたいと思います。宜しくお願いします。



紫陽花支部 曾村岳静

この度は総伝位を頂きまして本当に有難うございました。例えば故矢嶋悦先生にご指導頂き、先生が逝去されたとき詩吟はやめました。それから7年後お誘いを受け紫陽花支部に再入会しました。吟はまだまだ未熟ですが安心して聞いて頂けるよう精進してまいります。今後ともご指導のほど宜しくお願い致します。



紫陽花支部 矢島岳綾

この度は、総伝に推薦して頂き有難うございました。今日まで

詩吟を続けてこられたのは、先生方や教室の仲間、そして何よりも家族の理解があったからこそと思います。今は亡き矢嶋先生、杉山先生、根岸先生と3人の先生方に師事できたことは幸福なことと思えます。これからも精進してまいりますので更なるご指導を宜しくお願い致します。



紫陽花支部 矢嶋岳合

この度は、総伝位を頂き有難うございました。故矢嶋悦先生よりお誘いを頂きまし

たが当時私は仕事をしており、躊躇しましたがお仲間に入れて頂き25年、よく続いたと感無量です。これもひとえに諸先生方、吟友の皆様のおかげと感謝申し上げます。今後、詩の心を少しでも理解し、身体の許す限り精進してまいりますのでご指導宜しくお願い致します。

編集後記

今号のトップ記事で山崎監事が書かれている「青春」という詩。吟詠教本俳句・俳文：近代詩篇127頁に載っています。ぜひ吟じてみて下さい。元氣と勇氣がもらえます。

今年の秋は短かったですね。それでも錦色の世界は北日本から東や西日本へ南下中、近くの山々の紅葉は何時になるのでしょうか。

28年11月現在会員数	
逗子地区	112名
葉山地区	81名
合計	193名